

令和 4 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立東陽中学校 学校協議会

1 総括についての評価

- 教員が生徒一人ひとりの状況を把握し、様々な教育活動において生徒との信頼関係を深め、粘り強く教育実践を行っている。しかしながら、不登校傾向のある生徒や不登校生との状況は多様化しており、保護者・関係機関との連携を今以上に行い、きめ細かい生徒指導を行う必要がある。
- 規範意識も定着しており、どの生徒もしっかりととしたあいさつができる。
- 土曜授業で「ふれあい地域防災訓練」を実施し、生徒の防災意識を高めることができた。

2 年度目標ごとの評価

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は、84.3P となり前年度(75.9P)以上に向上させることができた。
- 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より増加傾向にあり、減少させることはできなかった。
- 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合 25P から 50P を増加させることができた。
- 年度末の校内調査において「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合は 68.9P となり前年度(64.3P)調査より向上させることができた。
- 年度末の校内調査において「学校は、防災・減災・安全に関する教育を行っている。」の項目について、保護者の肯定的な回答の割合は、91.4P となり、90P 以上にすることができた。
- 令和 4 度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、11 月までで認知したいじめについては、100% 解消させている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は、46.0P となり、前年度以上(48.1P) にできなかった。
- 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、3 年生は、国語も数学も前年度より 0.01 向上させることができたが、国語は変わらず、数学は 0.08 下がった。
- 大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合(4 技能) は、55P となり、目標の 53P 以上(前年度 38P) に向上させることができた。
- 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する生徒の割合は 53.8P となり、前年度以上(前年度 42.4P) にすることことができた。
- 令和 4 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における合計得点は、男子 36 点、女子 44.62 点となり、昨年度の合計得点、男子 39.35 点は上回ることができなかつたが、女子 43.3 点より向上させることができた。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和4年度の生徒アンケートで「普段1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」に対して「全くしない」と答える生徒の割合は、12.3Pを、昨年度12.8Pより減少させることができた。
- ・積極的に、学習者用端末等のICT機器を授業できるよう、学習者用端末の充電器やICT機器環境を充実させることで、毎日の学習者用端末の活用率100%を維持することで生徒の情報活用能力を向上に取り組んだ。その結果、年度末の校内調査において「学習者用端末等のICT機器を授業で活用しましたか」の項目について、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は75.3Pとなり、75P以上を達成することができた。
- ・ゆとりの日を設定（定時退勤）や休業期間中の閉庁日を設定し、長時間勤務にならないよう教職員の働き方改革を推進し、ゆとりの日については、月1回以上設定した。また、学校閉庁日については、休業期間毎においては2日以上設定した。
- ・読書文化の継承と更なる推進（朝読書、ブックトラックの活用、図書紹介）に取り組んだ。区役所と連携して電子書籍を活用した読書活動を取り入れた。結果として、令和4年度の校内調査において「読書は好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合74.2Pとなり、前年度（78.7P）より増加させることはできなかったが、電子書籍など新しい取り組みを進めることができた。

3 今後の学校運営についての意見

- ・多様化している不登校生徒の課題において、今後も継続的に関係機関と連携して取り組んでもらいたい。
- ・読書活動（イーライブラリーを含めた）については、継続的に取り組んでもらいたい。
- ・コロナ禍において実施できなかった小中連携の取組を進める体制作りを期待する。
- ・家庭学習習慣の取り組みを今後も進めてもらいたい。
- ・今後も防災意識を高める取組みを継続して取り組んでほしい。
- ・地域の担い手として、地域行事への積極的な参加をお願いしたい。